

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800408		
法人名	特定非営利活動法人グッドサポート福祉会		
事業所名	グループホーム小春日和		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合217番地		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800408-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①建物から自由に庭に出ることが出来、自然に触れたり畑の作物を収穫できたりと精神的な解放感を感じて頂ける工夫をしています②家庭的な雰囲気作りを重視しています③デイサービスやグループホーム小春日和第2の利用者との交流がレクリエーションやボランティア来所時に持てるよう配慮したケアをしています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田舎風の木造住宅を改装した日本家屋で、温もりと、懐かしさを備えた建物である。利用者が地域の中で、その人らしい暮らしを継続するための取り組みとして、子ども会・老人会・近隣の人たちと日常的に交流し、地域の一員として関係を築いている。近隣の人も普段から気がねなくホームに立ち寄り、庭木が伸びたら剪定してもらうなど、気さくな間柄となっている。管理者・職員は、家庭的な環境づくりを心がけ、大切にしながら、利用者の気持ちが安らぎ、生きがいのある暮らしの継続を支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のひとつに、自然や町の人々の力を借りて笑顔の小春日和に！とある。職員採用時やケアカンファ時に話す等して理念の共有をしている。	6つの理念を挙げ、職員会議で、具体的な実践に活かせるように話し合い、共有している。「小春日和で人生の総仕上げの花を咲かせてほしい、心の安らぎの花を」と、親しみやすい副題を設け、穏やかで安らぎのある暮らしを実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りには参加して交流するとともに、畑の作物や花をご近所からいただいたりして日常的に交流している。	自治会に加入し、双方のイベントを回覧し、地域の行事等には積極的に参加している。地域の祭りには、御輿がホームに入る等、地域の人たちと同じ付き合いをしている。近隣の人からは気軽に声がかかり、野菜や花など日常的に差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の集まり等随時認知症の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話あいを行い、老人会や子供会の方に意見をいただき祭りや行事への参加等サービスの向上に活かしている	運営推進会議は奇数月に定期に開催している。行政・民生委員・子ども会役員・近隣の住民・老人会の参加で、地域の防災協力、スズメ蜂対策、地域の祭り等で意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の福祉課に出席して頂き、実状の報告をしております。市から要請のあった書類作成は速やかに行う等協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。	市とは、困難事例や利用者の福祉制度利用手続き等の相談や事業報告を行い、日頃から協力関係を築いている。管理者は、行政の福祉計画作成委員として意見交換に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為については職員が十分理解するよう随時話あい、職員は十分理解できている。普段のケアの中で常識的な基本事項として取り組んでいる。	マニュアルを確認し、共通の認識のもと、拘束しないケアを実践している。廊下・居間・玄関にモニターカメラを設置し、安全を見守りながら、自由な行動を抑制しないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進員研修および身体拘束廃止推進相談員フォローアップ研修に1名参加しておりケア会議等を通じ虐待をみおとすことが無いよう伝えている。		

岐阜県 グループホーム小春日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については職員に説明し、理解をすすめている。現に2名は成年後見制度を活用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明者及び契約者により十分な説明を行うほか、事業所のケアに関する考え方、リスク、医療連携の実際、重度化について同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や面会時に積極的に要望を聞く機会を作るよう留意している。また出された意見や要望は随時話し合い対応している。	家族の面会時や運営推進会議で意見・要望を聞いている。嚥下補助食品の使用や尿取りパッドの取り扱い等の相談を受け、対応している。利用者の状況報告等を電話により行っているが、連絡が取りにくい家族に、どう向き合っていくかを検討課題としている。	連絡の取りにくい家族の事情や立場を考え、連絡方法や便りの活用など、工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンス時の他、日常的にコミュニケーションとはかり意見や提案を運営に反映させている。	毎月のカンファレンスに加え、管理者は、日頃から気軽に、職員の意見や提案を聴く機会を作っている。休憩室への職員専用冷蔵庫の設置、畑の除草対策、安全対策のモニターカメラの導入等の要望に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や努力を把握し給与に反映させている。労働時間も相談にのり、やりがいや向上心をもてるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際や力量を把握し適切と思われる研修を積極的に受講できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じ同業者と交流する機会を作っている。交流により連携の取り方等サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から訪問し本人と話す機会を確保し、状況の把握につとめ、信頼関係が築けるように心がけている。また要望に対応できるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談や相談で家族の思い等を十分聞く機会を設け、信頼関係を築けるよう努力してる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に状態の把握を行い、必要な支援の内容を見極め、他のサービス利用も提案させていただき解決策を探すよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念のひとつに、してあげる介護から生きることへの支援を！とあり、介護される一方の立場におかず共に支え合うよう意識して取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に状態を手紙や電話で報告し、絆がきれないように配慮している。通院はできるだけ家族におこなっていただき、本人をともに支えている意識を持って頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館や墓参り、昔からのかかりつけ医とのつながり等なじみの場所や人との関係が途切れないよう支援している	親族・知人・友人の面会時には、居室や庭に、ゆっくりと会話の出来るように、支援をしている。隣接のデイサービスにくる友人と日常的に交流している。馴染みの店への買い物や図書館へ同行する等、馴染みの人や場所とのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や居間での席は良好な関係が保てるよう配慮している。また居室にこもらないように声掛けを行い、職員が意識的に心地の良い利用者同士の関係を作り上げられるよう支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談にのれるような関係作りは行っている。時折電話や訪問により、安否確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望や思いを聞く機会を意識的に持つようにしている。言葉での表現が難しい方からは、表情や言葉の端々から意向の把握に努めている。	日々のケアや会話の中から、思いや意向を意識的に聴くようにしている。把握した事は、申し送りや記録ノートにより職員間で共有し、気持ちを受け入れながら、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時をはじめ利用中も各人の生活歴や状況、習慣等について本人や家族にお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケアカンファレンスにて情報を共有し現状把握に努めるとともに、日々の記録を読むことや観察等を通し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主任や担当職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。	担当職員が、家族や利用者の思いや意向、気づきを反映し、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があれば、随時見直し、現状に即した計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌をはじめ各記録により職員全員が情報を共有して、個別のケア、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人から生まれるニーズに対応できるよう随時観察、見守りをし柔軟な考え方で多機能化を心がけ取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム小春日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、ご近所の方々については運営推進会議での話し合いをもとに協力して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの連携機関による定期的な往診や本人や家族が希望される医療機関の受診等柔軟な対応ができています。連携歯科医院による月1回の口腔ケアも行われている	本人や家族が希望するかかりつけ医を選択してもらっている。協力医や歯科医による、月に1回の定期往診がある。受診は、柔軟に対応し、心身の状態を書面でそれぞれの医師に伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は連携先の訪問看護師に利用者に関する情報や気づきを伝え、週1回の定期的で適切な健康管理が受けられるよう支援している。訪問看護師は24時間対応で相談、指示、対応体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に対して必要な情報を提供している。また頻繁に見舞いながら相談員や看護師から情報を提供していただき、退院の相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケアに対する対応方針が作成されている。本人と家族には契約時に説明し、家族の協力の必要性についても理解を得ている	重度化や終末期の対応は、入居時に書類で本人家族に説明して同意を得ている。終末期には、家族の協力を条件とし、終末の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命の勉強会に参加したり、ケアカンファレンス時や随時初期対応について話をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に通報消火避難訓練を行っている。災害時の地域協力者名簿を作成している。	年に2回、消火避難訓練を実施している。消防署からもらい受けたDVDを参考にし、通報・初期消火・避難誘導を利用者と共に行っている。夜間想定訓練も行っている。連絡網に近隣の協力者も組み込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮がある話は居室で一人のときにする、オムツ交換はタオルを使用し羞恥心に配慮したりすばやい交換を心がけている、耳が遠い方は耳元で話しかけること等対応している。また常に丁寧な言葉使いをするよう職員に伝え、指導している	利用者をよく知り、本人の尊厳を守り、プライバシーを傷つけないような対応や言葉かけを心がけている。排泄介助では、羞恥心に配慮し、小さな声で、手際よく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や思いを表出できる場面を意識的につくったり、食事や製作、衣類を選ぶ時等少しでも自己決定ができるように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身の状態やペースに合わせて、出来るだけ希望に沿った過ごし方をしていただけよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや化粧等のみだしなみは本人の意思できめている。自己決定が困難な場合は職員が支援している。理容・美容は美容院に来たいただき本人の希望で毛染めやカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や好みに合わせ、配膳や茶碗洗い、下ごしらえを職員とともにしている。誕生日には本人の希望メニューを提供している。職員と利用者は一緒に食事をとり楽しい雰囲気作りを心がけている。	近隣の人が差し入れた、旬の野菜を調理している。利用者は食材の下ごしらえ、配膳、片付けを手伝い、職員も、食事を共にしている。地域の伝統料理を話題にして、楽しい雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の作成したメニューに基づいて作っておりバランスはよい。食事量や水分量は記録により把握を一人一人の状態にあわせ、提供回数や時間を工夫している。夜間は居室で自由にペットボトルで水分がとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助を行っている。毎月1回連携医療機関に来所してもらい本格的な口腔ケアと医療との連携がとれている		

岐阜県 グループホーム小春日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて状況の把握をし、失敗が少なくなるようトイレ誘導を行ったり、排泄サインを見逃さないよう観察を行い、尿意に合わせた誘導に心がけている。必要に応じポータブルトイレを居室に設置している。	排泄時に、カーテンを上手く活用し、羞恥心に配慮し、声かけなどで失敗をできる限りなくし、トイレで排泄できるように支援をしている。紙パッドも利用者にあった物を選択して使用量を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の状況を把握し、運動や体操、バナナジュースの提供や油分の多い副菜の提供等利用者の好みや状態にあわせた予防対策を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はおおまかに決まっているが、利用者の体調や希望にそって柔軟に対応している	入浴日は決めてあるが、本人の希望や体調に合わせて支援をしている。入浴を拒否する人には清拭に切り替える等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動して頂き生活リズムを整えるよう支援している。本人の体調や希望を考慮し居室や居間、庭で休息がとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、利用者が服用している薬の作用や副作用を把握できるようにしている。服薬による症状変化は毎日のバイタルチェックや本人からの訴えにより確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割作り支援ができるよう能力や好みの把握をするように努めている。デイサービスに出かけ交流することで気分転換ができるよう機会をもうけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には常に自由にできる。また墓参りや図書館への外出、花見や外食の機会をもうけ、本人の希望に沿うようにしている。日常的にご近所への散歩は行っている	日常的にホーム周囲を散策している。外出が困難な人は、前庭で、外気浴をしている。買い物や図書館へは随時、喫茶店などへは定期的に出かけており、地域ボランティアの協力で、紅葉狩り・桜の花見などへ出かけている。	

岐阜県 グループホーム小春日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力と希望に応じ、公衆電話を自由に使用できるように金銭を使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、自ら電話できるようになっている。手紙はご本人が書けるように必要なものは用意し、ポストに入れる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができる写真やちぎり絵やが食堂や廊下に飾ってある。手作りカレンダーや習字の作品が食堂に飾られている。また視力の低下した利用者が安全にトイレを使用できるよう電気はつけたままの状態としている。	窓越に見える里山に、四季を感じるができる。前の国道を終日車が行きかう光景がある。玄関や壁には、利用者の書・ちぎり絵・写真等、生活を感じる物を掲示し、照明は、柔らかな明るさになるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では一人一人の居場所ができるよう椅子の配置や数に配慮している。ベランダや庭には自由に出られることで居場所づくりはできている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が外の山を見るのが好きならば、可能な限り景色の良い居室を選んでいただいたり、落ち着くような家具を使用して頂いている。自宅から身内のお写真を持ってみえ居室に飾ってみえる	居室の内側に、手すりを取り付け、利用者がカーテンの開閉を安全に出来るよう工夫がしてある。室内は、民芸調のタンスに、家族の写真を飾ったり、一面鏡を使い安いように配置し、落ち着ける居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを安全な移動のためにトイレ、廊下や脱衣場、あらゆるところに設置している。スロープをつけ階段の段差解消を行っている。トイレスイッチの把握が困難なため操作しなくてもよい状態にしてある		